

耳川水系総合土砂管理に関する評価・改善委員会
第13回 山地・ダム・河道・河口海岸領域ワーキンググループ

令和6年の耳川流域の概況

令和7年3月18日

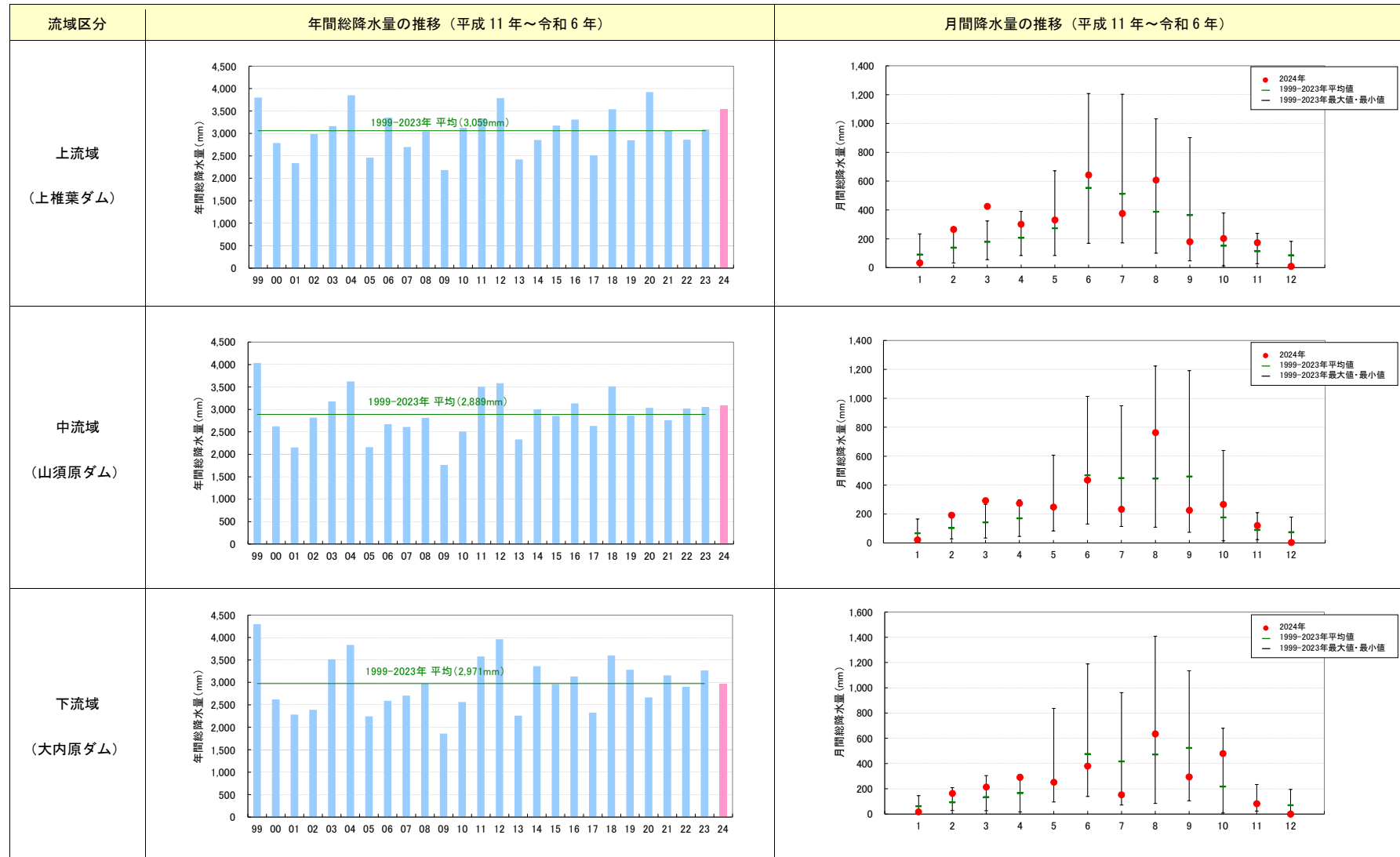
～令和6年耳川流域の特徴～

- 令和6年の年間降水量は、上流域・中流域において平均（平成11年～令和5年）を上回り、下流域では平均（平成11年～令和5年）と同程度である。
- 令和6年の主な出水は、台風10号（8月28日～29日）であった。
- 令和6年の月間降水量は、上流域の2月、3月、中流域の3月は、平成11年～令和5年の変動幅を超過して大きく、上流域・中流域・下流域の12月は、平成11年～令和5年の変動の範囲内を若干下回っている。
- 令和6年で最も大きかった出水は台風10号であり、山須原ダムでは、最大流入量が $2,334\text{m}^3/\text{s}$ であり、平成11年以降の26年間で4番目に大きい規模の流入量であった。また、大内原ダムでは、最大流入量が $3,021\text{m}^3/\text{s}$ であり、平成11年以降の26年間で4番目に大きい規模の流入量であった。

1. 降水量の概況

各流域（上流域、中流域、下流域）の年間降水量と月間降水量を整理した。

- 令和6年の年間降水量は、上流域・中流域では平均（平成11年～令和5年）以上、下流域では平均（平成11年～令和5年）と同程度である。
- 令和6年の月間降水量は、上流域の2月、3月、中流域の3月は、平成11年～令和5年の変動幅を超過しており、上流域・中流域・下流域の12月は、平成11年～令和5年の変動の範囲内を若干下回っている。



2. 出水の概況

令和6年の主な出水は、台風10号（8月28日～29日）であった。

令和6年で最も大きかった出水は台風10号であり、山須原ダムでは、最大流入量が $2,334\text{m}^3/\text{s}$ （瞬時値）であり、平成11年以降の26年間で4番目に大きい規模の流入量であった。

また、大内原ダムでは、最大流入量が $3,021\text{m}^3/\text{s}$ （瞬時値）であり、平成11年以降の26年間で4番目に大きい規模の流入量であった。

